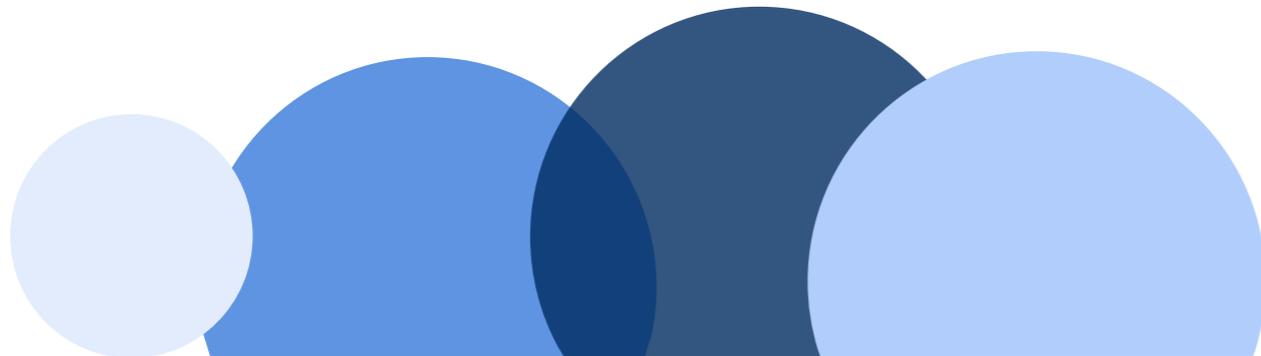
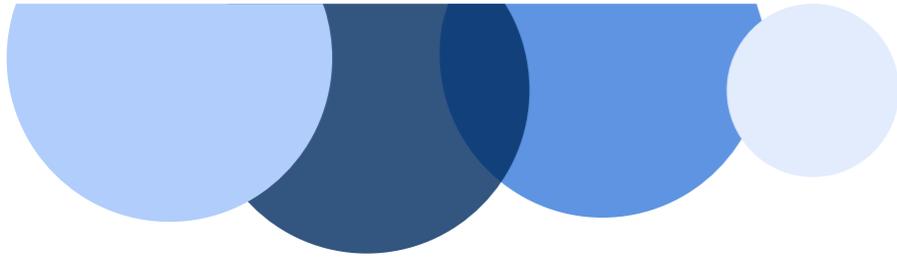


3. 政策策定と評価

EBPM②





本講義の狙い

- EBPMによる政策立案を実施する上で重要なロジックモデルについて説明できる

本講義の内容

- ロジックモデルとは —————4
- ロジックモデルの要素(例) —————7
- アウトプットとアウトカムの違い —————8
- ロジックモデルの具体例 —————11
- 本講義のまとめ —————15

EBPMとロジックモデル

- EBPM(証拠に基づく政策立案)の基本的な考え方(＊)
 - ① 政策目的の明確化
 - ② 政策手段と目的の論理的なつながり(ロジック)の明確化
 - ③ データ等のエビデンス(根拠)に基づいた、「政策の基本的な枠組み」の明確化



EBPMを推進していく上で、「ロジックモデル」の活用が有効

ロジックモデルを活用するメリット

- ✓政策形成・ブラッシュアップがしやすくなる
- ✓組織内外におけるコミュニケーションが円滑になる
- ✓モニタリング・効果検証がしやすくなる 等

ロジックモデルとは

- ロジックモデルの定義について、厚生労働省健康局がん・疾病対策課 課長通知「都道府県循環器病対策推進計画の策定にかかる指針について」（健が発1029第1号 令和2年10月29日）（*）において、以下の記載がある

政策分野の目標である長期成果(分野アウトカム)を設定した上で、それを達成するために必要となる中間成果(中間アウトカム)を設定し、当該中間成果(中間アウトカム)を達成するために必要な個別施策を設定するなど、施策が目標とする成果を達成するに至るまでの論理的な関係を体系的に図式化すること。

- ロジックモデルとは、施策が目標とする成果を明確にし、そこに至るまでの論理的なつながり、ロジックを図式化したもの

ロジックモデルに関する国の動向

- 厚生労働省 第8次医療計画等に関する検討会(令和4年12月28日)の「第8次医療計画等に関する意見のとりまとめ」(*)において、以下のように記載されている。

第8次医療計画等に関する意見のとりまとめ

- I 医療計画全体に関する事項
- 2 医療提供体制について
(医療連携体制に関する事項)

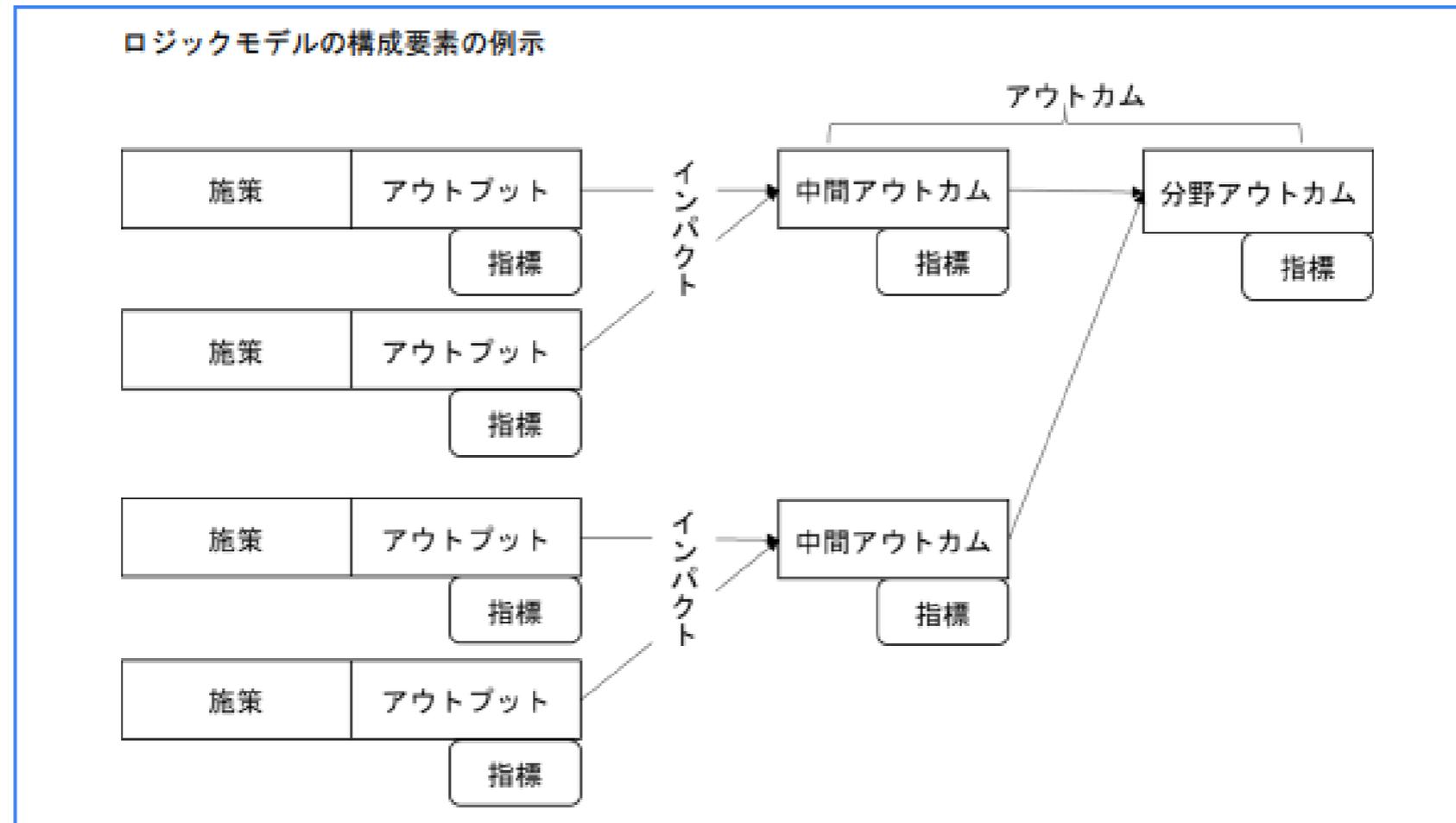
(中略)

また、地域の現状や課題に即した施策の検討においてロジックモデル等のツールが有用であると考えられるため、第8次医療計画において、都道府県がロジックモデル等のツールを活用できるよう指針で示すほか必要な取組を行うこととする。(以下略)

- 各自治体においてもロジックモデルを活用していくことが推奨されており、活用が進んでいる自治体も増えてきている。既に活用している自治体においても、改めて、ロジックモデルの意義について再確認することが重要

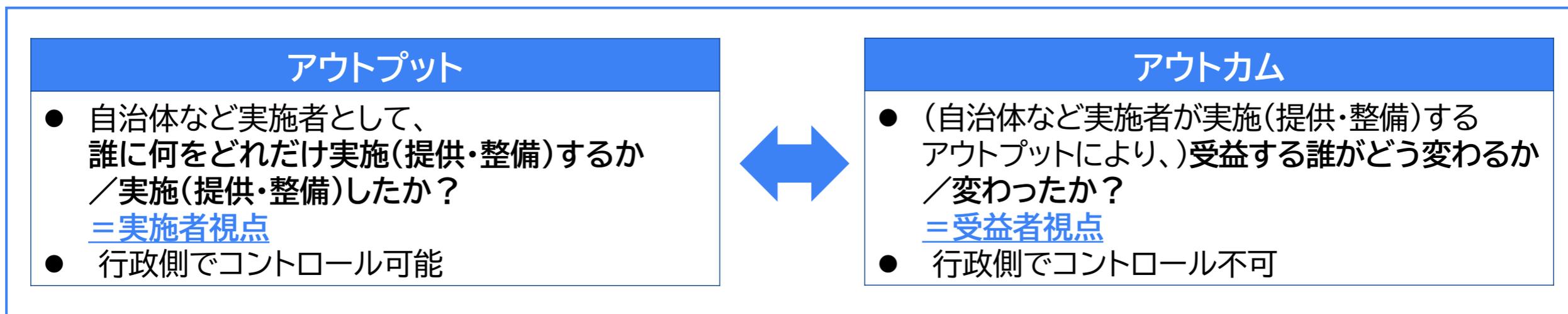
ロジックモデルの要素(例)

- 厚生労働省課長通知「疾病・事業及び在宅医療に係る医療体制について」(*)における、ロジックモデルの構成要素の例示



アウトプットとアウトカムの違い

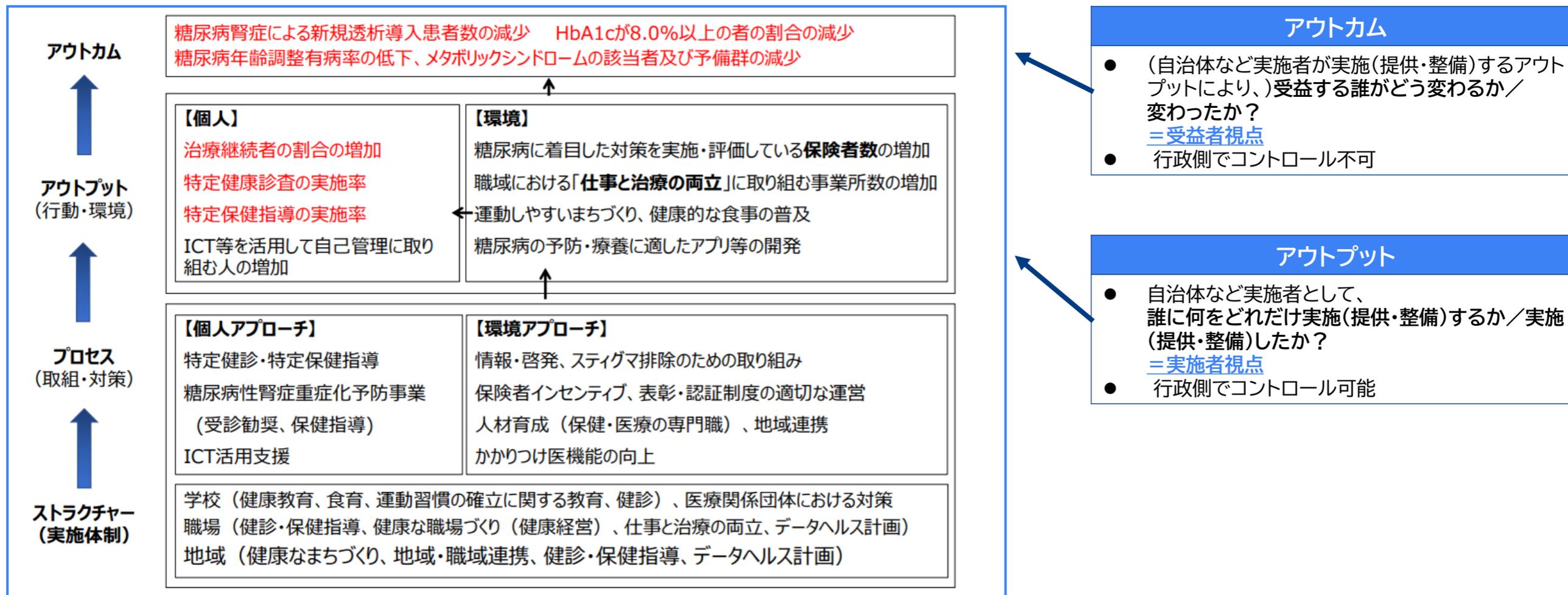
- アウトプットとアウトカムの違いについては、内閣官房行政改革推進本部事務局が作成した「EBPMガイドブック」(*)において、以下のように記載されている



- アウトプットは「実施者視点」、アウトカムは「受益者視点」
- アウトプット指標での評価に留まることなく、アウトカム指標でも評価することが重要

アウトプットとアウトカムの違い

- 「次期健康づくり運動プラン作成と推進に向けた研究」におけるロジックモデル(糖尿病分野:ロジックモデル②)



出所)厚生労働行政推進調査事業費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「次期健康づくり運動プラン作成と推進に向けた研究」ロジックモデルとアクションプラン(領域別)(8)糖尿病(津下一代)(閲覧日:2024/11/2)

アウトカムの必要性

- 厚生労働省 医政局 局長通知「医療計画について」において以下の記載がある
(医政発0331第16号 令和5年3月31日、最終改正 医政発0615第21号 令和5年6月15日)

5疾病・6事業及び在宅医療のそれぞれについて、地域の医療機能の適切な分化・連携を進め、切れ目ない医療が受けられる効率的で質の高い医療提供体制を地域ごとに構築するためには、医療計画における政策循環(PDCAサイクル等)の仕組みを一層強化することが重要となる。

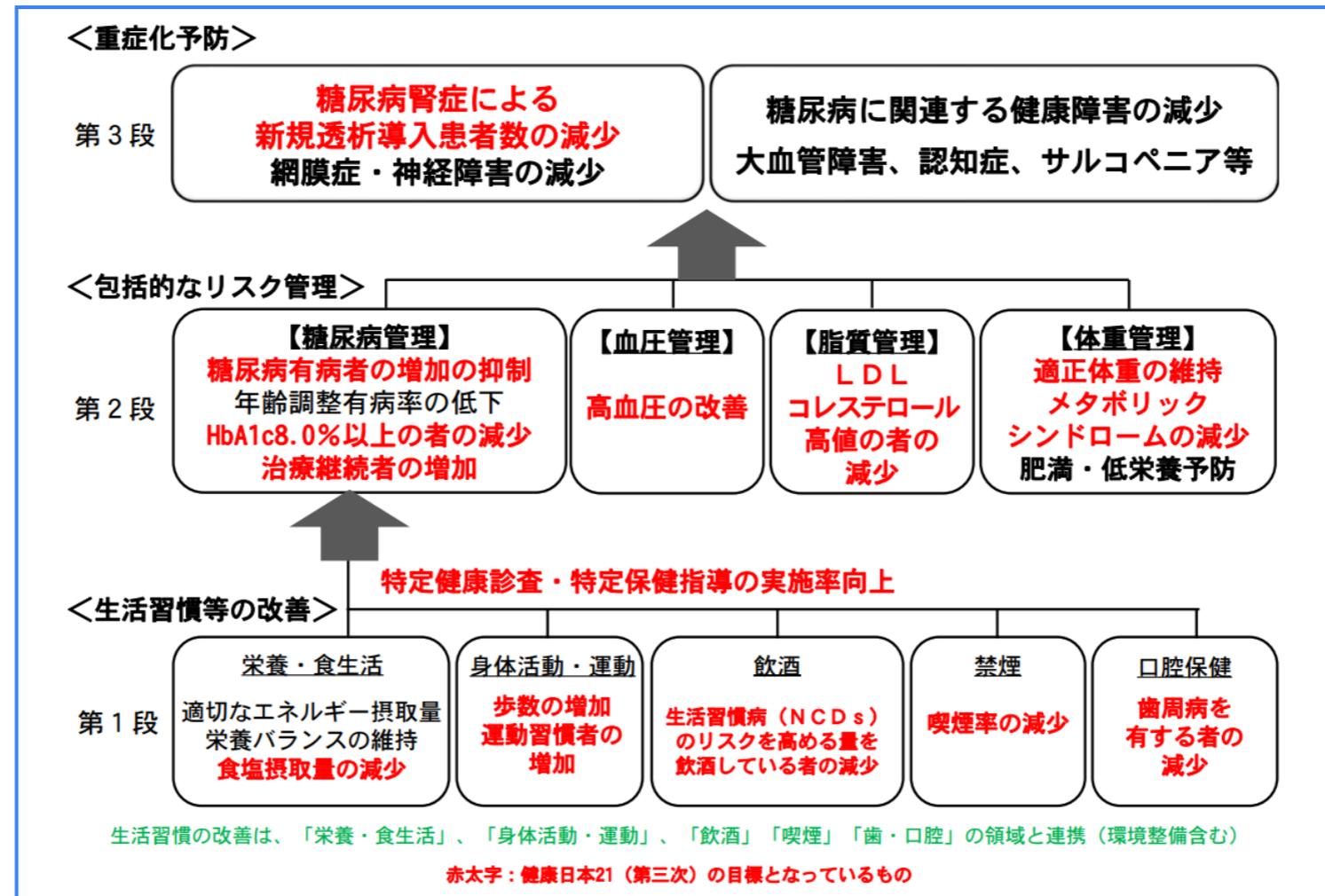
具体的には、住民の健康状態や患者の状態といった成果(アウトカム)を踏まえた上で、医療提供体制に関する現状を把握し、現行の医療計画に対する評価を行い、目指すべき方向(5疾病・6事業及び在宅医療のそれぞれの目指すべき方向をいう。以下同じ。)の各事項を踏まえて、課題を抽出し、課題の解決に向けた施策の明示及び数値目標の設定、それらの進捗状況の評価等を実施する。施策及び事業評価の際には、**施策及び事業の結果(アウトプット)のみならず、地域住民の健康状態や患者の状態、地域の医療の質などの成果(アウトカム)にどのような影響(インパクト)を与えたか、また、目指すべき方向の各事項に関連づけられた施策群が全体として効果を発揮しているかという観点も踏まえ、必要に応じて医療計画の見直しを行う仕組み(PDCAサイクル等)を、政策循環の中に組み込んでいくことが必要**となる。

抽出された課題を解決するために、具体的な方法を論理的に検討し、できる限り実効性のある施策を盛り込むとともに、各々の施策と解決すべき課題との連関を示すことが重要であり、**施策の検討及び評価の際にはロジックモデル等のツールの活用を検討する。**

- アウトプットだけでなくアウトカムも評価することにより、必要に応じた見直しを行うことができる

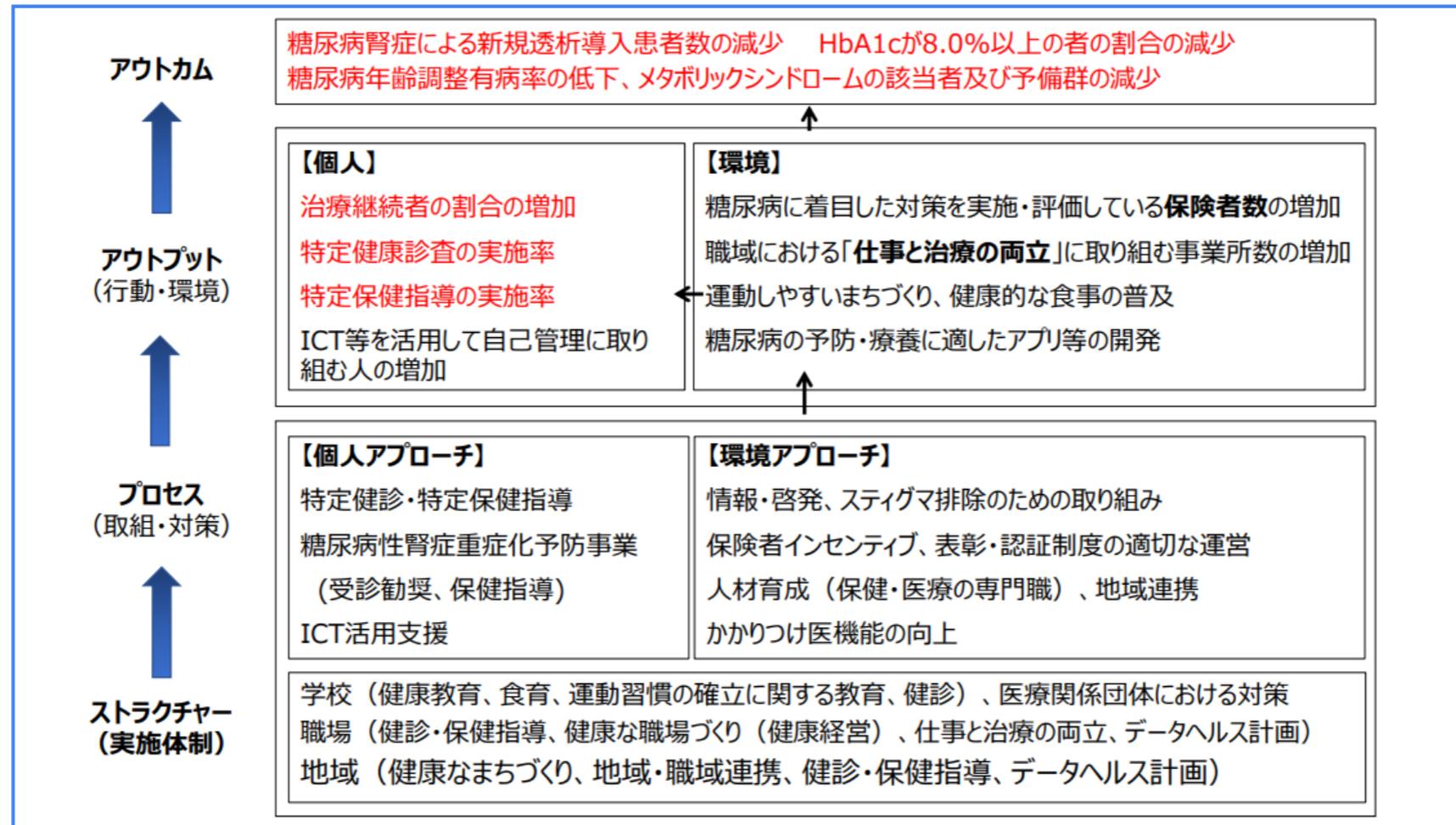
ロジックモデルの具体例(上位の目標に対するモデル)

- 「健康日本21(第三次)の推進のための説明資料」(糖尿病領域)におけるロジックモデル(*)



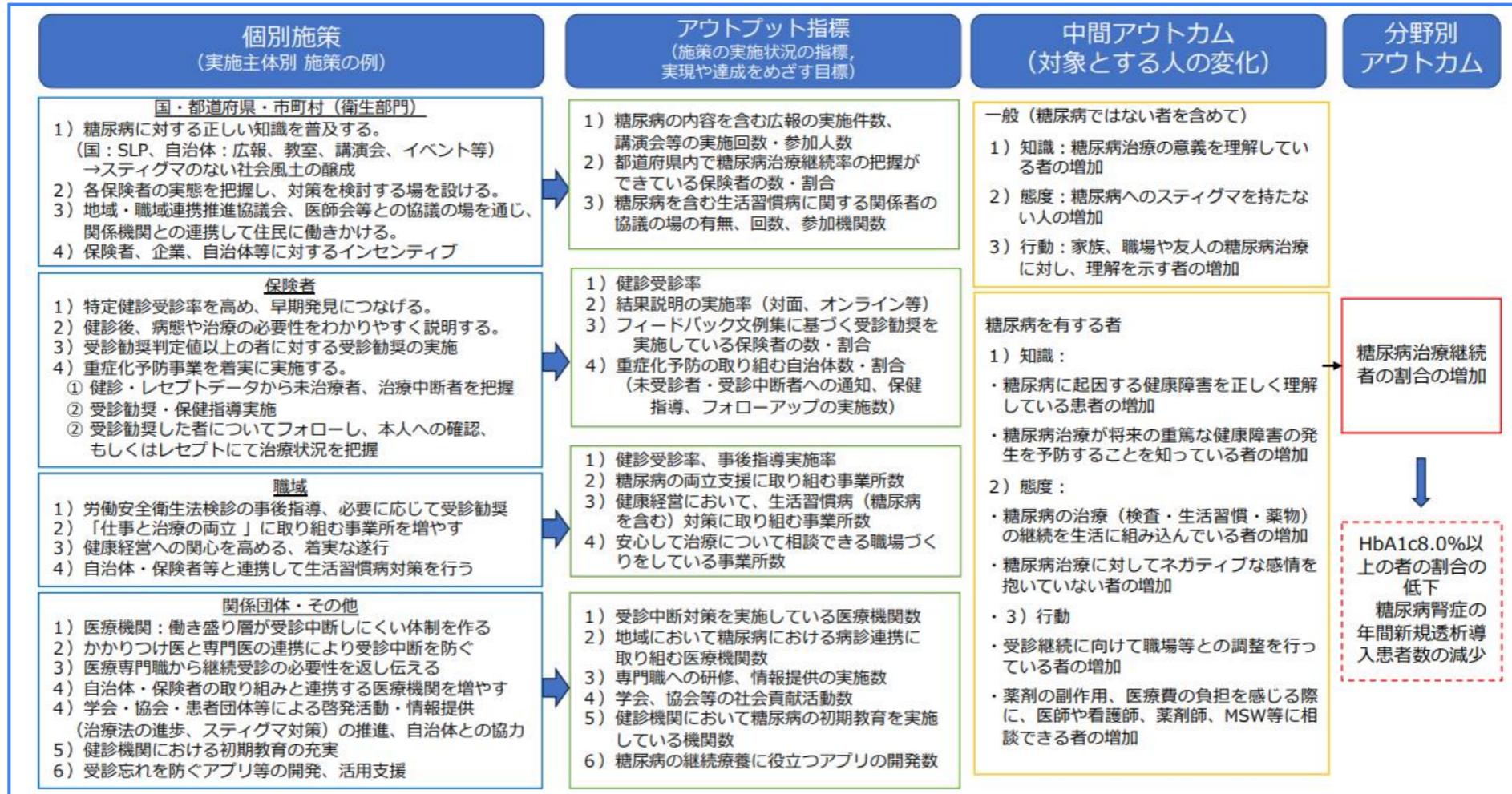
ロジックモデルの具体例(中位の目標に対するモデル)

- (再掲)「次期健康づくり運動プラン作成と推進に向けた研究」におけるロジックモデル(糖尿病分野:ロジックモデル②)(*)



ロジックモデルの具体例(下位の目標に対するモデル)

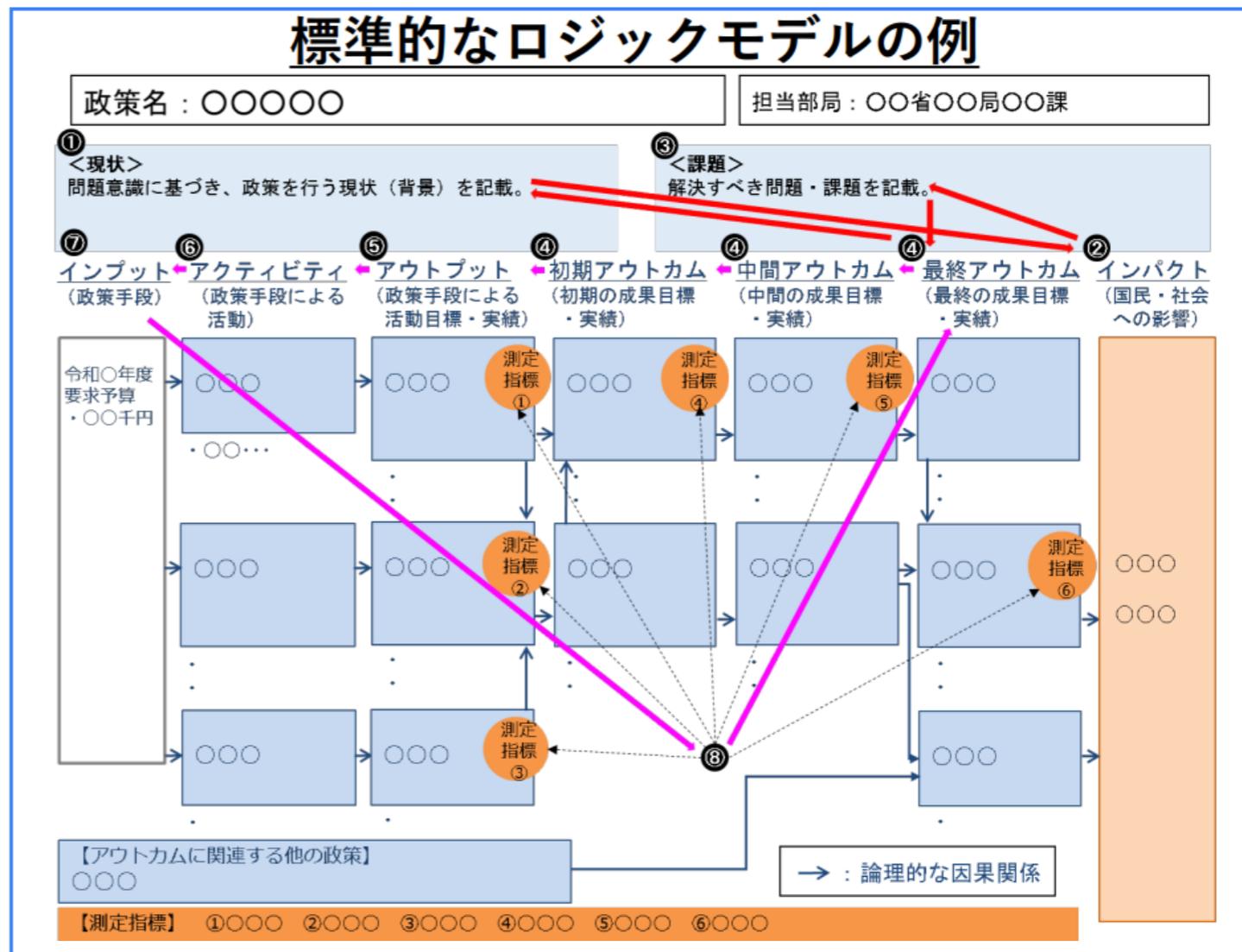
- 「次期健康づくり運動プラン作成と推進に向けた研究」におけるロジックモデル(糖尿病治療継続者の増加:ロジックモデル)(*)



ロジックモデルの要素(例)

ロジックモデルの要素(例)(*)

政策目的の明確化に必要な要素	①現状把握
	②インパクト
	③課題設定
	④アウトカム
政策目的から政策手段に至るまでの論理的なつながり(ロジック)の明確化に必要な要素	⑤アウトプット
	⑥アクティビティ
	⑦インプット
	⑧測定指標



本講義のまとめ

- ロジックモデルとは、施策が目標とする成果を達成するに至るまでの論理的なつながり(ロジック)を体系的に図式化したもの
- EBPMを推進していく上で、ロジックモデルの活用が有効
- ロジックモデルの構成要素としては、とくに「施策」、「アウトプット」、「アウトカム」を軸に作成することが一般的
- アウトプットは「実施者視点」、アウトカムは「受益者視点」
- 国民・住民に対する政策効果を正確に評価するためには、アウトプット指標とアウトカム指標を明確に分けた上で、アウトカムについても検討・評価していくことが必要
- ロジックモデルの様式は1つに限定されるものではなく、施策が目標とする成果を達成するに至るまでの論理的なつながり(ロジック)を体系的に図式化できていれば、様式は問わない